

Rosario Quarterly Information



広報
ロザリオ

社会福祉法人

ロザリオの聖母会

千葉県旭市野中4017

Tel (0479) 60-0600

ホームページアドレス

<http://www.rosario.jp>

Eメールアドレス

honbu@rosario.jp



第24回福祉作文コンクール入賞者のみなさん（平成27年12月5日撮影）

第25回(平成28年度)ロザリオ福祉作文コンクール

福祉作文全体評

県内有数の福祉施設「ロザリオの聖母会」が、未来を担う児童生徒の皆さんに福祉について理解と関心を深めていただこうと、毎年夏季に福祉作文の募集を行って参りました。

今年度は銚子・旭・匝瑳市の一七の小学校から一〇七作品、銚子・旭・匝瑳各市の八つの中学校から七六作品、併せて一八三の作品が寄せられました。

教育委員会、各市の小学校、中学校の先生方の御協力に対しまして厚く御礼を申し上げます。

○高齢化社会を反映してか「祖父、祖母」の介護を題材にした作品が多くありました。温かく、熱心にお世話している様子が書かれた作品があり感心しました。

○福祉施設を見学したり、お世話の体験をした作品も多くありました。訪問して利用者の皆さんにたいへん喜んでいただいたという内容も多くありました。

○福祉の大事さ、命の貴さ、人間

としてどのように生きていくべ

きか、などを考えた作品も多く

ありました。

○障害者を差別、軽蔑、厄介者扱

いした作品がまったく無いの

は、日頃の学校や家庭の教育成

果と敬服いたしました。

○良い作品と考えたものは

・書こうとする内容が鮮明な作品

・傍観的立場でなく、主体的に

実践した作品。

・文章構成が「段落の区切りが

明確」「内容の焦点が明確」

な作品。

・差別、軽蔑的な表現の無い作品。

・読みにくい薄い筆記でなく、

誤字のない作品。

どうぞ今後も福祉作文について

御協力をお願い申し上げます。

平成二十八年十二月

【審査委員】

楠木 正

(元中学校長・指導室長)

真久孝昭

(元中学校長・指導主事)

松井安俊

(元中学校長・指導主事)
ロザリオの聖母会理事

4 年 生 選 評

○1席 旭市立嚶鳴小学校

渡邊龍之介さん

【おじいちゃんのかいじょうじ】

おじいちゃんの介護をして感じ
たことがよく書けています。車い
すの生活についてもお手伝いをし
たのはえらかったですね。

○2席 旭市立矢指小学校

花澤悠実さん

【私の体験】

パンをつくることから、ロザ
リオの人々の生活を見たのはえら
かったですね。ひいおばあちゃん

のお手伝いもしたのは立派でした。
障害をもつ人たちにやさしくしよ
うという気持ちはえらいです。

○3席 銚子市立双葉小学校

三村命さん

【命かけがえない】

命の大事さについてよくかけて
います。ニュースを見て感じたこ
と、立派でした。

5 年 生 選 評

○1席 旭市立嚶鳴小学校

崎山心寧さん

【思いやる、きれいな心】

思いやる心を持った人が社会の
中にふえることが福祉です。席を
ゆずる心は立派です。

○2席 旭市立矢指小学校

平野桂大さん

【差別の無い社会へ】

体験をして障害のある人も仕事
について社会のためにがんばって

いるのを知ったのはえらかったで
すね。

○2席 旭市立中央小学校

山本珠実さん

【介護施設に行つて】

ありがとうという言葉の行き交
う施設はあたたかい感じがしま
す。障害のある人が楽しく生きて
いけるようにお世話してくださ
い。

○3席 銚子市立双葉小学校

杉村日和子さん

【私達の身のまわりのやわらかい】

尊厳と人権について理解してい
ることに感心しました。やさし
さ、あたたかさに満ちた社会であ
るよう。

○3席 旭市立富浦小学校

佐藤萌衣さん

【待機児童問題】

待機児童について立派な意見に
感心しました。保育士の給与が低
いのは事実です。

○3席 旭市立干潟小学校

渡辺悠楓さん

【バリアフリーの大切さ】

バリアフリーについてよく観察し、その大事さについて理解したのは立派です。

○3席 旭市立嚶鳴小学校

浅野心優華さん

【防災無線がなくなぐ地域の輪】

認知症の人がふえています。防災無線によって情報を知り、無事に戻るように協力することは大事です。防災無線によってお手伝いできることは大きなことです。

6年生選評

○1席 旭市立琴田小学校

佐藤桜花さん

【おじいちゃんとおばあちゃんの介護】

がんで亡くなったおじいちゃんとおばあちゃんの介護の様子や交流を優しい視線で丁寧に描いています。がんの怖さをしっかり受け

止めて、自身の夢や目標に向かって進もうという強い意志が表現されています。

○2席 旭市立中央小学校

品村風怜さん

【私のひいおばあちゃん】

パーキンソン症候群を始め、骨折や複数の病気などで不自由な生活をしているひいおばあちゃん。その状況を具体的に描けています。この経験から、お年寄りに何より大事なのは家族と一緒に暮らせること、それに一人暮らしが減るような取り組みが必要だと訴えています、説得力があります。

○2席 旭市立干潟小学校

並木優空さん

【ぼくのおばあちゃん】

父方、母方の二人のおばあちゃんの病状や施設入居の経緯などが、詳しく具体的に話の運びもいいですね。お世話している母親への思いやりや、さりげない優しさも表現できています。亡くなった

おじいちゃんの分も、二人のおばあちゃんが長生きできるといいですね。

○3席 旭市立中和小学校

岩名香澄さん

【障害の私の姉】

足や手に障害のある姉さん、筆者は姉さんが大好きです。でも周囲の心ない人の中には障害をもつ人の気持ちが分からない人もいます。もつと障害をもつ人への理解が広がってほしいという熱意が伝わってくる文章です。

○3席 旭市立中央小学校

永井遥夏さん

【デイサービスのすばらしさ】

九十五歳のひいおばあちゃんが元気がなくなってきたので、デイサービスを勧めたところ、最初は嫌がっていたが、だんだんと楽しそうに通うようになりました。お陰で家族の負担も軽くなり、おばあちゃんも生き生きしてきました。こういう制度やサービスが増

え、充実することを願っています。

○3席 銚子市立飯沼小学校

名雪百奏さん

【聴覚障害と私たち】

聴覚障害に関心をもち、直接聴覚障害者に質問を投げかけ、疑問を解明していく姿勢に感心しました。震災の時の困った状況も具体的に理解できました。学んだ手話を実生活で活用し、障害者の方々の交流を深めていってもらいたいと思います。

中学1年生選評

○1席 旭市立第二中学校

遠藤風夏さん

【私の祖父】

いくつもの病気をかかえている上に、認知症の祖父。母親と筆者の二人で介護している大変な様子が詳しくリアルに描かれています。少しずつ良い変化が見られてきた

中学2年生選評

のは、きつと優しい心でお世話しているからでしょう。祖父との関わりから自分も成長していきたいと考えていることは立派です。

○2席 銚子市立第六中学校

宮内美帆さん

【笑顔集まるこの場所で】

ロザリオのイベントがあり、気がすすまないけれど、参加してみました。会場いっぱい参加者の様子や笑顔に圧倒され、障害者に対する先入観や偏った見方に、筆者は気づかされました。三つ年下の女の子にも励まされ、みんなで支え合って生きることの大切さを忘れずに強く生きていきたいという決意をもつに至ったのは、えらいです。

○2席 旭市立飯岡中学校

渡辺大介さん

【ぼくの祖父】

働きの祖父が倒れ、左半身不自由になった上に、せきずい脳症を発症し、長期入院。その後、在

宅介護で、家族みんなで助け合っている様子が具体的に生き生きと描かれています。筆者も、お手伝いを通して介護の大変さが分かり、理解が深まりました。大切なことは、みんなの協力と感謝の気持ちだ、と説いています。

○3席 旭市立第二中学校

穴倉琴梨さん

【老人介護について】

二人の曾祖母（父方と母方）の介護の大変さが具体的に生き生きと述べられています。病状を気遣いながら、疑問点を調べたり、お手伝いしたり、積極的に取り組んでいます。介護支援を行っている祖父母を見習い、ボランティア活動にも意欲的で、頼もしいです。

○3席 銚子市立第六中学校

加瀬友鈴さん

【みんな同じ人だから】

障害者に対するショッキングな事件から、二十代で目が不自由になった親戚のおじさんの話、視力

を失った先生が周囲の人の支えで教壇に戻れた話、小学校時代の友人の話などのエピソードを通して、障害者に対しては理解しようとする気持ちが一番大事で、同じ人間であることを忘れずに思いやること、と説いている。

○3席 旭市立第一中学校

林夏美さん

【今できることを考えよう】

「学生ボラ体験スクール」に参加加して、ボランティアのこと、認知症のこと、車いすや手話のことなど、いろいろ学んだことがわかりやすく述べられています。これらの活動を通して、困っている人がいたら助ける、思いやりの心をもつことが大切だと気づきました。これから様々なボランティア活動に参加して実践力を発揮してもらいたいものです。

○1席 銚子市立第二中学校

川端凜さん

【いのちと話すお仕事】

老人養護施設での三日間の職業体験を通して、職員の方々が常に入居者の体調管理に気をつけていることがわかりました。と同時に、誰かのために働いて感謝されることはこんなに気持ちがいいことだと思いました。

日常生活でも自ら仕事を引き受けたり、誰にでも優しく接していることと決心しています。

○2席 匝瑳市立八日市場第二中学校

古作優果さん

【知ることの大切さ】

小学六年生の時の職業体験で児童発達支援センターに行き、その後もボランティアで何度か行っています。自閉症やダウン症の女の子とのかわりから、障害についての理解を深め、その子のプラス



の特性を伸ばしてあげることが大切だと訴えています。

○3席 匝瑳市立八日市場第二中学校

佐藤優希さん

【介護士】

疲れて帰ってくる介護士の母を見ている私は、介護士という職業をよく思っていないませんでした。しかし、母の勤めている特別養護老人ホームの職業体験で一変しました。達成感があり、充実していました。特に、利用しているおばあさんに「ありがとう。また来てね。」と言われたことは心に響きました。

中学3年生選評

○1席 旭市立第二中学校

来栖杏友さん

【貴重な一日】

障害者施設での福祉体験の中で、障害者の方をよく見つめ考えられています。そして、三つの貴重な

発見がありました。実際に体験してみても、障害者へどう接していけばよいかが理解できた一日になりました。

○2席 匝瑳市立野栄中学校

伊藤花流さん

【私と弟】

自らも吃音症に苦しんでいます。自閉症の弟を温かい目で見つめています。吃音症とは長い付き合いになると思うので、上手く対処していこうと心に決めていきます。これからも、自閉症の弟とともに辛くことがあっても乗り越えていこうと思っています。

○2席 銚子市立第二中学校

長嶋愛結さん

【ボランティア活動】

ボランティア活動に否定的だった私が、学校のゴミ拾い活動に参加しました。すると、周りの人達も嬉しそうだし、ボランティアをやっている自分も気持ちが悪くなくなりました。

そのことをきっかけに、いろいろなボランティアに目を向けていきます。みんなで協力するのが当たり前になる世の中を望んでいます。

○3席 銚子市立第六中学校

宮内七奈さん

【諦めないこと】

老人ホームでの職場体験で、二人のすてきな女性に会いました。最初の人は手などがマヒしている方で、オセロを楽しんでいました。二人目の人は目が不自由な方で、折り紙を楽しんでいました。自分だったらどうするかな、と自分自身を見つめています。

○3席 旭市立第二中学校

古山あみさん

【大切な人のために】

大好きな祖父が肺炎になり、意識もなくなり入院しました。しかし、孫の名前を聞かせると奇跡的に回復しました。そこには温かい

分もかけがえのない大切な人の為に頑張ろうという強い意思が生まれました。

○3席 旭市立第二中学校

市川莉央さん

【暮らしに優しい工夫を】

病院での職業体験で目の不自由な方のリハビリをしました。そのことを通してバリアフリーの必要性を強く感じました。そして、視覚障害者に限らず全ての障害者に対する理解が深まり、障害を持つ方が快適に暮らせる未来を希求しています。

○3席 旭市立第二中学校

飯島楓さん

【ボランティアを通して】

高齢者施設の納涼祭のボランティア活動を通して、介護士という職業はお年寄りを幸せにする、すばらしい仕事だということを実感しました。そして、お年寄りと共に生きていく温かい社会の実現を望んでいます。

◆優秀作品紹介◆

ぼくにできるかい(ご)とは

旭市立嚶鳴小学校

四年 渡邊 龍之介

ぼくは、この夏休みに旭中央病院に行きました。どうして行ったのかというと、今、ぼくのおじいちゃんが大きな病気で一週間に一度通院しているからです。

おじいちゃんが病気になったのは、今年の六月ころでした。そのころは、今よりも元気だったので、ぼくもあまり気にしていませんでした。昨年の夏休みはぼくたちのお昼ごはんを作ってくれたり、わるいことをしたら大きな声でおこってくれたり、いつも笑ってふざけたことばかり言っていました。そんなおじいちゃんが少しずつやせていって、家の階段をおりるのも苦しそうになってきたのは、今年の三月ころからでした。おじいちゃんの家にあそびに行っても

階段の上から「おう、龍之介きたのか。」と声をかけることが多くなりました。ぼくは、階段をおりることがつらいおじいちゃんのかわりに、ぼくから二階に上がって、「よう、じいちゃん。」と声をかけに行くことにしました。

ぼくは、家族みんながいつも元気で楽しく笑ってすごすことが幸せなことだと思っていました。だけど、病気は、とつぜんやってきて家族の笑い声を少しずつイライラにかえてしまった気がします。今までは学校の帰りに大雨だったり、早帰りの日はおじいちゃんがむかえに来てくれたから、ぼくは一人でずるずるすること、雨にぬれてかぜをひくこともありませんでした。けれど、おじいちゃんの病気がわるくなってからは、車の運転もできなくなって、ぼくは一人で家にずるずるする日が多くなりました。おじいちゃんに心配をかけないように思っても、一人でずるずるするさみしい気持ちがいっつのまにかおじいちゃんの病

気のせいと、声をかけてくれてもひどいことを言うようになっていました。ぼくはそんな自分がとてもいやになりました。いやになればなるほど、家族にもイライラをぶつけていました。でも、たん生日をむかえて、家族にいっぱいおいわいしてもらったら、なんだか急にがんばろうという気持ちになりました。

家族みんなでおじいちゃんの病気がたかたかっているんだから、ぼくも自分に来ることは手伝おうと思いました。

夏休み前には歩けなくなってきたおじいちゃんに肩をかしてあげたり、病院内では車イスをおしてあげたりしました。おじいちゃんには薬の副作用でごはんもあまり食べなくなると、車イスをおしたらとても軽かったです。

病院に行くたびに、院内には色々な人がいました。おじいちゃんのように車イスに乗っている人やおなかの大きなお母さんが小さい子供をだっこしていたり、病院の中で迷子になっているお年よりなどがいました。



旭中央病院は大きくてきれいだけど、大人でも迷子になるのはおかしい病院だと思いました。

ぼくだったら、横一列に全部の科をならべて、一目でわかるようにしたらいいと思いました。そして、目的の科の前に行ったら、真つすぐおくに一列だけになっていけば、みんな迷わないと思います。それから、車イスの人がたくさんいるのに、待ち合い室は長イスがいっぱいすぎて、車イスの人の待つ場所がかべのところや、はじっこだけということに気が付きました。だったら、長イスが背合わせでならべられていたから、その間に車イス用の幅を空けてあげたら、車イスと付きそいの家族が一緒に座れるとぼくは思います。

今回、おじいちゃんと病院に行っと思ってたことは、病気で体力をなくしていく家族の支えは、肩をかすこと、車イスをおすことも大切だけど、一番は、ぼくたちがいつも元気いっぱい、たくさん笑ってたくさん話をする事です。

そして、おじいちゃんは最後までぼくたちのことを心配しながら、家族全員に見守られて眠るように天国へ行きました。

最後に、ぼくには福祉や介ごはまだよくわからないけれど、みんながほんの少しでも自分にできることをしたらよいと思います。

ぼくの介ごは、おじいちゃんのごす時間を大切にして、たくさんばかをやって笑わせたことでした。

「思いやる、きれいな心」

旭市立嚶鳴小学校

五年 崎山 心寧

「福祉」とは何か？私の中の「福祉」は、一人一人が毎日を幸せに過ごすことです。辞書を使って調べると、

「人々が満足できる生活」

と書いてありました。しかし、人々が満足できる生活とはどんなものでしょう。私たちが生きている今はその満足できる生活をしているのでしょうか。これから、今までの私自身の体験を述べたいと思います。

私が四年生だった時、家ごとと出かけるために、電車に乗っていました。私は始発から乗ったので席に座ることができました。何分

かたつと、電車の中はギュウギュウで暑苦しい状態でした。なので座れていた私は、

「座れてよかったなあ」

なんて思いました。そんな時、ふと顔を上げたら、私の目の前に

は、疲れていそうなおばあさんが立っていました。立っているのも

だるそう、電車が揺れるたびに

バランスを崩してしまいそうな感じでした。私は

「席をゆずったほうがいいのかな」

と考えました。

「まあ、でも私の他にも

ゆずろうとしている人が

がいるかもしれない。」

とも考えました。しかし、

私の右がわの女性は携帯電話を

じくっていたし、左がわの女性は

ねていたし、周りを見ても同じよ

うな行動をしている人ばかりでし

た。この時、一人一人は自分にし

か意識が向いていないと感じて

しまいました。私は、降りるまで

座っていたかと思っただけ、お

ばあさんの気持ちを考え、勇気を

だして、私は言いました。

「あの…どうぞ座って下さい。」

「ありがとう。でも、私は大丈夫。

あなた、まだ乗るでしょう。」

私はおばあさんの、心のやさしさ

を見た気がします。おばあさんは

私に温かい笑顔を向けて、

「ありがとう。」「本当にありがとう。」

と何度もお礼を言ってくれました。

私はあの時、勇気をだして声を

かけて本当に心の底から嬉しかっ

たです。「席をゆずる」という動

作は相手を思いやる、きれいな心

があるかどうかだけなのだと分か

りました。私は、人を思い

やる、「きれいな心」を

忘れずに生きていきたく

いと思います。また、

みんながその心をもつ

てくれると幸せな社会

になると思います。

「福祉」とは、人々が満足でき

る生活のことです。今の社会はそ

の満足できる生活に少しづつなっ

ていきます。しかし、まだ、百パー

セントではありません。何が足り

ないかといったら、相手を思いや

るきれいな心です。この心をもつ

人がこれから増えていったらいい

などと思います。それが満足できる

第一歩だと思いました。

人々が相手を思いやって手をと

り合える社会を私は望みます。

おじいちゃんとおばあちゃんの介護

旭市立琴田小学校

六年 佐藤 桜花

みなさんは、「がん」という言葉を耳にしたことはありませんか。

がんは、とてもこわい病気です。手術をして治ることもありま

すが、発見がおけると、あつと

いう間に体中に広がりがり亡くなつて

しまいます。わたしのおじいちゃん、おばあちゃんもそのおそろし

いがんになつてしまいました。

先におじいちゃんが天国へ旅立ちました。六十四歳でした。おこ

るとこわいですが、何でも知っ

ていて、面白く、とても優しい

自まんのおじいちゃんでした。

二〇一一年にがんが見つかりまし

た。抗がん剤の治りようで髪は抜

け、いつもぼう子をかぶっていま

した。しかし、そんなことには負

けないでいつも元気な姿を見せ、

いろいろな所に連れて行ってくれ

ました。そして、おじいちゃんは、

手術をし、二年間も生きることが

できました。



おじいちゃんが亡くなる一か月前、妹が生まれました。しかし、おじいちゃんは、生まれたばかりの妹を一度もだこうとはしませんでした。きつと元気になってから、いつばいだこうと考えていたからだと思います。それでも、おじいちゃんは、三月十四日のホワイデーの日に亡くなってしまいました。私は、おじいちゃんが妹へ命のバトンタッチをしたのだと思います。

おそう式の日、おじいちゃんの手をきれいにしていて、おばあちゃんが弟にさみしいからと言って、ずっと手をつないでいたそうです。心細くなってしまったのかもしれません。

そんなおばあちゃんにも、がんがおそいかかってきました。おじいちゃんの介護で早くきづくことができまじいから、おじいちゃんが亡くなった日から、たった一年で天国へ旅立ちました。その一年は、一日一日がいそがしく、本当にあつという間でした。毎日病院に行き、介護をしました。水差しをきれいに洗って、おばあちゃんに水を飲ませてあげると、



「いつもよりおいしく感じるね。」と言ってくれたことは、とてもうれしかったです。手術をするために他の病院に行ったり、介護施設に行ったり、おばあちゃんは大変な移動をしました。私たちも大変でしたが、おばあちゃんも大変だったと思います。そして、私たちはおばあちゃんが亡くなる三日前に、今の家に引っ越ししました。

おばあちゃんと一緒に住むためでした。私たちが引っ越しを終えた後、安心したかのように、静かに旅立って行きました。最後の三日間は、引っこしが大変で、なかなかお見まいに行くことができませんでした。私は、そのことが今でも後かいでなりません。おばあちゃんは、きれいで優しく、おじいちゃんのように何でも知っているあこがれの人でした。一緒に住んでもっと色々なことを聞いたり、教えてもらったりしたかったです。

おじいちゃんとおばあちゃんは仲が良く、とても似ていました。なので、先に行ったおじいちゃん、天国からおばあちゃんを呼んだのだと、私たちは考えました。このように、がんはあつという間にその人の人生をうばってしまう

います。いつ、誰のもとにがんがくるのかは、わかりません。私は、おじいちゃんやおばあちゃんの分まで長生きをして、家族や友達との楽しい思い出をたくさん作ろうと思います。

将来、獣医になりたいという夢を持っていきます。人ではありませんが、病気で困っている動物を助け、おじいちゃんやおばあちゃんに胸を張っていえるようにしたいと強く思いました。

周りの人のことを考えて、一日一日を楽しみ、自分の目標に向かって頑張っていきたいです。これは私の一生の目標です。

私の祖父

旭市立第二中学校

一年 遠藤 風夏

私の祖父は、八十六歳です。足腰が悪く、トイレや食事の準備も一苦労です。だから、普段はデイサービスとショートステイを、繰り返し利用しています。

祖父には、腹部に動脈瘤があり

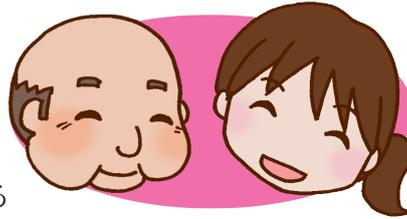
ます。年をとっているのです、大きな年をとっているのですが、いつ破裂してもおかしくない状態です。それ以外にも、六つの病気をかかえています。認知症と閉塞性動脈硬化症（ASO）とパーキンソン病、多発性脳梗塞、高血圧症、徐脈です。どの病気も危険と隣合わせで、普通の生活をするのは不可能です。しかし、この中で特に困っているものがあります。それは、認知症です。

認知症は、老化による物忘れとは違い、脳の神経細胞の変性や脱落が原因で発症します。体験したことを丸ごと忘れ、ヒントを出しても思い出せません。これがだんだん進行して、判断力も低下してきます。しかし、自分では、物忘れがひどいことを自覚していないので大変です。何が大変かというと、私の祖父はタバコを吸っていたことが原因で、ASO（動脈硬化症）になりました。この病気は、痛み止めを飲めば、痛みがやわらぎ、タバコを吸わない限り痛みが走ることもありません。しかし、痛み止めのおかげで、痛みを忘れてしまいます。そのため、祖父は脱走してタバコを買ったり、

もらったタバコを隠れて吸ったりしようとするのです。だから、タバコが買えないようにお金を預かるしかありません。そうすると祖父は、お金やタバコを探して色んなところをいじってしまい、散らかしてしまいます。部屋はめちゃくちゃになります。

他にも、私たちの郵便物を勝手に開けて無くしてしまったり、物を取ってしまったりすることもありません。判断力が落ちているためこれが悪いことだと分かりません。悪いことだと伝えても、そのことを忘れてしまうのでまた同じ事の繰り返しです。

認知症の影響以外でも困ったことがあります。例えば、ご飯は味が濃くないと食べてくれません。しかも、好きな物以外は一人前も食べられません。薬も飲みたくない、少し目を離したすきに、口から出して隠しています。そのため、ご飯を食べるところから、薬を飲み込むところまで見ていなければなりません。これを朝と夜にやります。朝は母が見て、夜は私が見ることになっています。



家は、父が単身赴任中なので、母と私で祖父の面倒をみています。母も仕事があったり、疲れていることもあります。私も自分のことで精一杯のことであって、毎日のことなのでとても大変です。しかし介護施設には、入ることができません。空気がないのです。しかも、祖父は七つ病気があるため入れる施設も限られてしまいました。その受けてくれる施設の中で、順番を待ちます。順番は、介護度や家の事情によって変わってくるそうです。祖父は介護度4で、母と私が見ているため順番は少し早くしてもらえました。しかしだからと言って、すぐに入れるわけではありません。私はこの事を高齢化が進んでいるからではないかと思いましたが、祖父以外にも介護施設を必要としている人がいるのでしよう。少しづつでも介護施設が増えて、介護を必要とする人達が不自由なく生活することができるようになると良いと思います。

このごろ祖父が少し素直になった気がします。それによく笑うよ

うになりました。前に比べご飯もきちんと食べるし、薬も飲んでくれます。少しづつですが、祖父が良い方向に変わっていていると感じます。だから、私も少しづつ祖父に対するかわり方を変えていけたらと思います。

「大変だな」「いやだな」と思いながら接すると、それが伝わってしまおうと思うので、素直な優しい心で受けとめて、これから祖父と接していきたいです。祖父のかかわりから自分も成長していきたいです。

いのちと話すお仕事

銚子市立第二中学校

二年 川端 凜

私は今年の夏休み、家の近くにある老人養護施設に三日間、職業体験へ行きました。私は何かしらしていないと落ちついていられない人なので、一日中動きまわる職業体験の日はとても充実していたと思います。

この老人ホームでは、朝九

時からミーティングがあります。ミーティングでは、前日は何かお年寄りに変化はなかったか、などを報告し合っていました。昨日は誰が体調不良を訴え、どう対処したかを細かく伝えていて、私が体験中の三日間も、毎日何かしら体調不良の報告があり、一見、お年寄りの方々は毎日元気そうに話をしたり、歩いていただけ、誰もが毎日元気なわけではなくて、職員の方々は常に入居者の体調を気にかけて、お年寄りの方々自身も自分の体調を気にかけて、無理せず早めに職員に伝えることが大切なんだな、と思いました。

ミーティング後の仕事は、三日間全て同じ事をするのかと思っていました。三日とも全て違う仕事内容で、一日目はお風呂上がりのお年寄りに飲み物を配る仕事、二日目は月に一度のストレッチ教室をお年寄りの方々と一緒に受けました。最終日は入居者の部屋に置いてあるポータブルトイレのそうじをしてまわりました。その中でも一番印象に残っているのは、やはりポータブルトイレのそうじでした。トイレに溜まった便を流し、中をきれいにみがく仕事を任

されました。私は何も気にせずには溜まった便を流そうとしてしまいい、「その向きで流したら持ち手の部分にもかかっちゃうよ？もつと気を遣って流さなきゃ駄目だよ。」と注意されてしまいました。

私は注意が足りなかった、もつと細かい事を気にしながら行動しなくては、と反省しました。トイレを洗い終えて、部屋へ戻しに行く時、部屋にいたお年寄りの方が「ありがとう」と笑顔で言ってくれました。感謝の言葉は普段でもよく使われますが、誰かのために仕事をした後に「ありがとう」と言われると、普段言われる「ありがとう」よりもっとうれしい気持ちになるな、と感じました。また、そうじをしていたときに「このトイレは、自分でトイレに行くことのできないお年寄りのためだけにではなくて、ここに溜まった便の色を見て体調がどうか確かめるためのものでもあるんだよ」と聞きました。私は便の色を見て体調確認をする、など思いもしなかったの、相手も気がつかないような細かい所まで考慮されていて、改めてすごいな、と思いました。

午前中の一番最後の仕事はお

年寄りの方々の食事の見守りです。皆とてもおいしそうに食べていて、一気にお腹が空いたように感じました。この老人ホームは、昔は二つに分かれていて、私が今回職業体験をさせていただいている方は入居者が皆元気なお年寄り、もう一つは別の場所に移ってしまったのですが、寝たまま動けないお年寄りの方々が中心の施設だったと聞きました。しかし、私が今いる方の施設も、ほとんど



ていない私の後ろは、食器を片付けようとするとお年寄りが並び、詰まってしまいました。そんなとき、自分の食器を片し終えた男の入居者の方が「お姉ちゃんお疲れ様、ありがとねー」と言いながら、私の持つていた食器を片付けてくれました。気を遣わせてしまったかな、申し分けのないな、と思いつつ、周囲を見渡してみると、何人かの入居者の方が、自分以外の方の食器も進んで片付けていて、職員の間としてとつてもありがたいな、と思いました。その後のそうじも私にモップを用意してくれたりして、段々と申し分けのない気分になってきて、嬉しいのやら申し分けのないのやらで少し複雑な気持ちにもなりました。

午後からの仕事も全て違う事をしていましたが、今の時期はちょうど入居者の布団干しがあつたので、三日間のうちの二日は布団を運んだり、シーツを取り変えたりなどですつとバタバタしていました。

この施設で三日間体験をして、本当に色々な事を学んだと思います。ここで体験をしなければ、誰かのために働き、感謝されること

もしなかったし、気付けなかったと思います。ただ、私は人見知り

貴重な一日

旭市立第二中学校

三年 来栖 杏友

私は、夏休みの間に母が勤めている障害者施設へ福祉体験をさせてもらいに行きました。福祉体験は自分でも気になっていたということもあるけれど、母がいい経験になると思うからやってみればとすすめてくれたのでやってみることにしました。

私は、体験の日までどんな体験になるのか少しわくわくした気持ちと施設は暗く、障害者の方は怖

いというイメージがあつたので不安な気持ちもありました。でも施設へ行ってみると職員の方が障害者の方に笑顔で接し、それで障害者の方も笑顔になっているところを見て、私は思っていた自分のイメージと違うなと思いました。私が一日体験した施設には重症心身障害者の方々が入所していて私が入った部屋には自分で動ける方が一人、自分で動けない方が六人いました。体験した一日の午前中は服・オムツの交換、利用者さんを車いすに移動させホールへ移動しお茶を飲ませる、寝具のとりかえ、ご飯の準備、ご飯という流れでした。午後は洗濯たたみ、リハビリ、おやつ、歯みがき、オムツの交換、ご飯の準備という流れでした。私が一日の体験で印象に残っていることは三つあります。一つ目は、障害者の方と遊んだことです。私は、服とオムツを交換している時に自分で動ける方と少し遊びました。遊ぶといっても、手を握ってきたので上下に動かすくらいでした。手を握られた時、思っていたより力が強くおどろきました。最初は、まだ障害者の方と接することに慣れていな

かったので、ビクビクしながら遊んでいました。でも、一緒に遊んだ方はずっと笑っていたので私まで笑顔になれました。初めは、障害者の方がする事一つ一つにこれはやっても大丈夫かなと不安になりながら接していましたが、接していくうちにどんどん慣れてきて、注意をしながらも普通に話しかけたり遊べるようになっていきました。私はその方の笑顔のおかげで緊張がほぐれ、障害者の方と普通に接することができるようになりました。二つ目は、ご飯のことです。ご飯の形状は人それぞれ違く、食材を細かくきざんであったりミキサーをかけてペースト状になっていたりしました。見た目が献立で聞いた料理と全然違かったので私は「本当にその料理の味がするのかな」と思いました。私はご飯の時自分でご飯を食べることができるとご飯を数回に分けて、小皿にとって渡しました。私が皿によそってあげると止まることなく食べ続けていました。小皿にとった分が食べ終わって、私が次に食べる物をよそる時に少し時間がかかってしまっているとその方が私の背中をポンとさ

わってきました。私が少しおどろいていると、支援員の方が「早く食べたがっているのではないのかな」と教えてくれました。私は声を出したり人をさわったりする事には理由があつて、それがわかるには普段からの信頼関係があるからこそその事だと思いました。三つ目は一冊のファイルのことです。リハビリの前に少し時間があったので利用者さん一人一人の特徴が細かく書いてあるファイルを見せてもらいました。そのファイルには、その方が好きな事や嫌いな事、病気のことやらかな姿勢などが詳しく書かれていました。そのファイルを読んで少し驚いた時、一人の利用者さんがぼーっとしていて頭をいじっていました。私はその方の特徴のところ嫌なことがあると頭をいじる、その時は靴や音が鳴るものを渡すと書いてあったことを思い出しました。手を見てみるとさっきまで持っていた靴のオモチャを持っていなかったたので靴のオモチャを探して渡しました。すると頭をいじるのをやめて靴のオモチャで遊びはじめました。それをみて私は少し安心し、気持ちが少しわかったような

気がして嬉しくなりました。その時私はその人の特徴を知ることの大切さがわかりました。

一日福祉体験をしてみても障害者を支援する事はとても大変なことだけれど、施設はとても明るく笑顔であふれていることがわかりました。職員の方は、ケガや病気にならないよう、すごく注意をしたり、一人一人の好みに合わせて食べ物をかえたりして利用者に一人一人を本当に大切にあげかけているんだなと思いました。一日施設にいて職員の方が明るいかなと思いましたが、私は、障害者の方は自分でありがとうとは言えないけれど、言えないかわりに笑顔でありがとうという気持ちを伝えていけるのではないかなと思えました。私ができる事は少なかったけれど新しい発見や気持ちがあつたととてもいい経験になる体験でした。



第25回福祉作文コンクール入賞者

小学4年生の部

- 1席 旭市立嚶鳴小学校 渡邊 龍之介
- 2席 旭市立矢指小学校 花澤 悠実

- 3席 銚子市立双葉小学校 三村 命

- 3席 旭市立富浦小学校 佐藤 萌衣

- 3席 旭市立千潟小学校 渡辺 悠楓

- 3席 旭市立嚶鳴小学校 浅野 心優華

小学6年生の部

- 1席 旭市立琴田小学校 佐藤 桜花

- 2席 旭市立中央小学校 品村 風怜

- 2席 旭市立千潟小学校 並木 優空

- 3席 旭市立中和小学校 岩名 香澄

- 3席 旭市立中央小学校 永井 遙夏

- 3席 銚子市立飯沼小学校 名雪 百奏

中学1年生の部

- 1席 旭市立第二中学校 遠藤 凧夏

- 2席 銚子市立第六中学校 宮内 美帆

- 2席 旭市立飯岡中学校 渡辺 大介

- 3席 旭市立第二中学校 宍倉 琴梨

- 3席 銚子市立第六中学校 加瀬 友鈴

- 3席 旭市立第一中学校 林 夏美

中学2年生の部

- 1席 銚子市立第二中学校 川端 凜

- 2席 匝瑳市八日市場第二中学校 古作 優果

- 3席 匝瑳市八日市場第二中学校 佐藤 優希

中学3年生の部

- 1席 旭市立第二中学校 来栖 杏友

- 2席 匝瑳市立野栄中学校 伊藤 花流

- 2席 銚子市立第二中学校 長嶋 愛結

- 3席 銚子市立第六中学校 宮内 七奈

- 3席 旭市立第二中学校 古山 あみ

- 3席 旭市立第二中学校 市川 莉央

- 3席 旭市立第二中学校 飯島 楓

- 医療保護施設 海上療養所
- 訪問看護ステーション ソフレイア
- 就労継続支援B型事業所 ワークセンター
- 医療型障害児入所施設・療養介護事業所 聖母療育園
- 生活介護・児童発達支援・放課後等デイサービス(重点) 聖母通園センター
- 児童発達支援事業 聖母通園センター
- 児童発達支援センター 旭市子ども発達センター
- 障害者支援施設 聖マリア
- 障がい者の就労促進事業所 聖家族
- 生活介護事業所 みんなの家
- 共同生活援助事業所 聖家族作業所
- 高齢者支援事業 ナザレの家あさひ
- 口ザリオ高齢者支援センター
- 口ザリオ訪問介護事業所
- 通所介護・介護予防通所事業所 デイサービスセンター・ローザ
- 障害者支援施設 佐原聖家族園
- 生活介護・放課後等デイサービス 聖ヨセフつどいの家
- 共同生活援助事業所 ナザレの家かとり
- 地域生活支援センター 友の家
- 中核地域生活支援センター 海匠ネットワーク
- 障害者就業・生活支援センター 東総就業センター
- 香取市相談支援事業 香取障害者支援センター
- 障害者就業・生活支援センター 香取就業センター
- 障害者相談支援事業 みるみらい



このロゴマークは、師イエズス修道女会 北爪悦子修道女 により作成されました。